

HOT NEWS

雲仙復興事務所

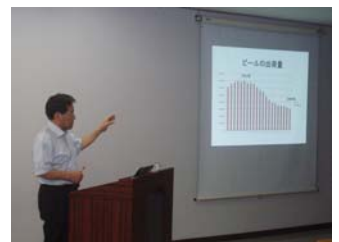
平成23年8月8日

★ ISOって? 「ふ～ん」から「なるほど」 第3回技術セミナーを開催しました

発信元

雲仙復興事務所
建設専門官 児玉 幸三

国および地方自治体の発注機関では、価格のみの競争だったこれまでの方式とは異なり、周辺環境にマッチした技術の評価や工事の品質アップ等に対応した総合評価落札方式を促進しています。このような背景の中、雲仙復興事務所では、7月22日(金)に講師として「ISOを理解するための50の原則」(日経文献賞受賞)の著者でもある経済産業省産業技術環境局、矢野研究開発調整官をお招きし、品質の世界基準であるISOについて、基礎的な事から最近の状況まで講演して頂き、中でも「建設業における品質管理」「企業としての品質管理戦略」のあり方を考える技術セミナーを開催しました。セミナーには、当事務所職員をはじめ、地方自治体(長崎県、島原市、雲仙市、南島原市)遠くは長崎市からの建設会社を含む施工業者等計約40名が参加しました。参加者からはめったにない機会でもあり積極的な質問も飛び交い大変有意義なセミナーとなりました。



○矢野調整官の講演



○地方自治体からの質問

モノ品質から組織品質へ拡大



○時代のシグナルを感じますか

今年の成人者を例に、「昨日(20年前)、今日、明日(20年後)」の大きな変化を経済指標で比較。富士山からエベレストへの視点という社会の潮流変化を理解し対処していく姿勢が重要。

○ISO9000

今日120万企業がISOを取得し、中国をトップに直接・間接のISO関係者は世界で数億人を超える。ISOへの理解不足からISOを難しくしている。「はさみとISOは使いよう」、幹部が患部ではないか。

CSRは組織の質

CSRとは、企業が法律遵守にとどまらず、企業市民として社会に貢献し、経済・社会・環境(いわゆるトリプルボトムラン)の3側面のバランスをとりながら事業を成功させること。
キーワードは、①持続的成長(長生き企業)、②ステイクホルダーとの対話、③トリプルボトムライン。



○ISO14000

国境を越えた世界的な環境問題への対応には、従来の個別の環境規制では限界。市場原理とインセンティブを与えるのがISOマネジメント規格。環境で製品や組織を磨くという発想が重要。

○ISO26000

昨年11月に制定されたCSR(企業の社会的責任)の国際規格。近江商人の「売って良し、買って良し、社会良し」に通じる考え方で、市場のボーダレス化で、「信頼こそ企業の生命線」という組織の質を測る国際基準。

雲仙復興事務所は、今回のセミナーを活かし「公共事業の品質アップ」にむけて半島地域の各機関・各事業所と連携し、さらなる向上に努めます。